

日本一高い稜線の旅・白根三山

日程：2017年 10月 7-10日

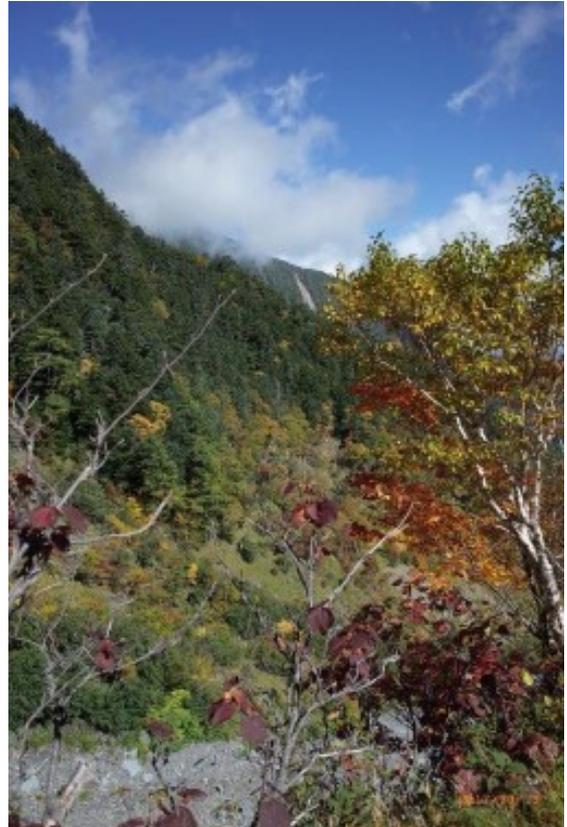
メンバー：2名（MNちゃん、せきの）

報告：せきの

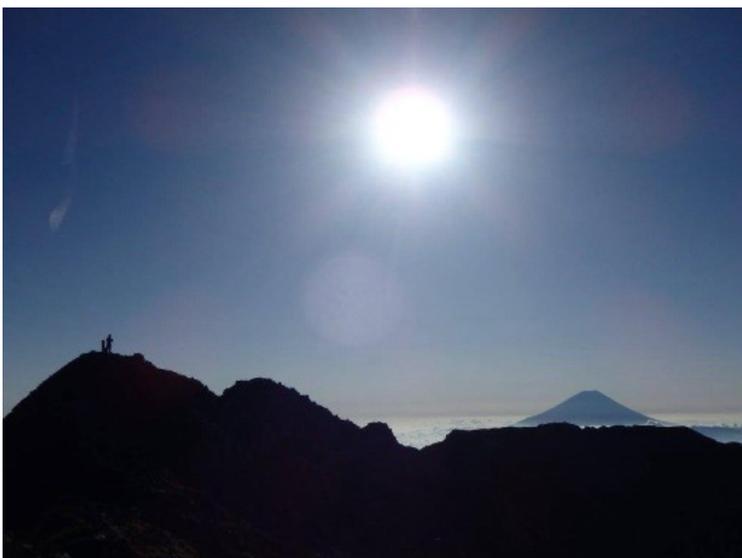
今年の夏山は天候に恵まれなかった。梅雨明け10日なんて嘘っぱちで、宣言されたと思ったら戻り梅雨。しかしながらMNちゃんとの組み合わせは天気運が良く、これまでもピンポイントで晴天を掴んできた。さて今回もラッキー再び……。

3泊小屋泊りとは言え紅葉シーズン&連休真っ只中、「食事はなるべく自炊」「就寝時の寒さ対策のため寝袋持参」で合意。いつもより背中が重くなった。

初日は御池小屋までたったの2時間半で楽勝と舐めてかかっていたが、上りで足が前に出ない。スピードが出ない。こりゃヤバイことになった明日から大丈夫か？と不安がよぎる。悪天を理由にここ2ヶ月ほど山を歩いていなかった。途中休憩でアミノバイタルを一服し効果あってか少しずつ体が慣れてきたが、打ちのめされた初日だった。雨は上がったものの肌寒く、霧の立ち込める御池小屋のテラスで、明日への活力あったか豚汁をホクホクしながらお腹一杯食べました。



色付いた紅葉



農鳥岳に向かう稜線にて

2日目は距離が長いので出発は早めの5時。あたりは薄暗くヘッドランプで歩き始めた。草スベリコースはいきなりの急登と覚悟していたのに、なぜ降る？二俣コースに入ったことに気づき引き返す。傷は浅いが20分ロスった。前日の明るいうちに登山口を確認しなかった痛恨のミス。今日宿泊予定の農鳥小屋のおやしさんは到着が遅れると「雷落ちる」の噂アリ。背中が重く、気持ちは焦る。しかし今日はお天道さんと青空が私たちを後押ししてくれている。気分は前向き！ふたりで気合の掛け声で急登を一歩また一歩。「どっこい！どっこい！」「どっこい！どっこい！」牛歩も重ねりゃなんとやら～～で肩の小屋到着 8:10。

ここから先は360度大パノラマ劇場の主人公になった。鳳凰三山がいつの間にか眼下の景色となる。照り付ける太陽。果てることなくどこまでも広がる青空。「すごいぞ！」3000メートル級の稜線に立った喜び。ここから北岳(3193m)=中白根(3055m)=間ノ岳(3189m)、下って農鳥小屋(2813m)へと今回の山行のクライマックスだ。「いつかは行こうね」と二人で意気投合するきっかけとなったのがこの稜線。天候にも恵まれ念願成就。中央アルプスをお隣さんに、富士山に見守られ、振り返ればいつも北アルプス、甲斐駒は弟、仙丈は妹みたいなものだわ〜と気が大きくなる。

とは言え、中白根への登り返しは結構重かった。広い頂を持つ間ノ岳に辿り着いたときはうれしかった。気持ちも体もほっと一息。長めの休憩でお腹と心を満たしました。眼下の赤い屋根の農鳥小屋を目指して懇切丁寧なマーキングを頼りに高度を下げていく。いよいよ到着 14時30分。小屋主の落雷ナシ。道中知り合った仲間と4名で山行の無事と出会いに乾杯。肴はブロックン、西に傾いた太陽からのプレゼントだった。

3日目は大門沢小屋泊なので余裕の行程。農鳥岳(3025m)を目指して6時30分出発。背中の荷物もだいぶ軽くなってきた。風がやや強めで山影は肌寒いが、相も変わらぬ眺望の良さ。じわじわ迫りくる塩見岳。大門沢下降点で荷物をデポして広河内岳(2895m)まで足を伸ばしてみる。ガレ場で歩きにくいと頂上に立つとそこから南方、笹山へ通じるなだらかな尾根が伸びていた。私たちは広河内岳で引き返し、下降点から慎重に下り大門沢小屋に到着した。ここで祝杯を挙げようと心に決めていたのに、間もなく小屋仕舞いのためビール品切れ、入荷ナシ。そんな殺生な〜。コーヒー片手に乾杯した。



大門沢・下降点にて。
遭難者の家族が建てた鐘つきの櫓

翌日はキノコを観察しながらゆっくり奈良田まで下山。奈良田の里で汗を流し、天候と仲間にも恵まれた南アの旅に感謝しつつ、帰路に就いた。

同行のMNちゃんは重い荷物を率先して担いでくれた。心からありがとう。

<コースタイム>

- 10/7 甲府南口バスターミナル 10:05=広河原 12:30=白根御池小屋 15:00
- 10/8 白根御池小屋 5:00=肩の小屋 8:10=北岳 9:30=間ノ岳 13:30=農取小屋 14:30
- 10/9 農取小屋 6:30=農鳥岳 8:30=大門沢下降点 9:15=広河内岳 11:00=大門沢小屋 14:00
- 10/10 大門沢小屋 7:15=奈良田 11:00